

2024 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 主な Q&A

※ 当日の質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

[運輸収入]

Q: 東北新幹線の需要回復が他方面に比べて遅いことについてどう分析しているか。

A: 観光需要よりビジネス需要の戻りが鈍いことが要因と考えている。Web 会議の浸透等を踏まえると、ビジネス需要をコロナ前と同様に戻すには限界があるため、観光利用をいかに伸ばしていくかを考えていきたい。東北の自然や食、文化等をいかにキーコンテンツにできるかが重要と捉えている。北陸方面については観光需要の比率が高いため、比較的回復が進んでいると分析している。

Q: オフピーク定期券の購入率とシフト率は計画通りか。

A: 定期券の買い替えのタイミングが人によって異なるため、目標とする 17%に一気に到達することは難しい。購入率は、現時点で期待通りに進んでいる訳ではないので、まずは 2 桁を目指していきたい。シフト率については、5%の目標に対してまだ半分に届いていないので、買い替えが多い 4 月・10 月を重点的に狙いながらシフトを促していきたい。

[運賃・料金制度]

Q: 鉄道運賃・料金のあり方に関する国土交通省との議論について、6 月の国土交通省の公表後の進捗や今後の見通しはどうか。

A: 国土交通省とは将来投資を総括原価にどのように織り込むかなど、議論を継続している。当社からは原価の算定要領を早めにアップデートしていただきたいと要望を伝えている。

[不動産・ホテル事業]

Q: TAKANAWA GATEWAY CITY の安定稼働時の営業収益見込みは約 560 億円とのことであるが、リーシングは計画通り進んでいるか。

A: 開発エリアの価値をご理解いただきながら賃料も含めて交渉中であり、リーシングは順調に進んでいる。現時点では、安定稼働時の営業収益見込みは約 560 億円、IRR は 10%を越える見込みである。

Q: 回転型ビジネスの進捗状況は。

A: 不動産の回転型ビジネスによる物件売却は、上期の実績はなく、下期に実施予定である。通期業績予想では、営業収益で 300 億円・営業利益で 100 億円を見込んでいる。

[資本コストを意識した経営]

Q: 今後の資本政策について教えてほしい。中期経営計画では ROA を KPI に掲げているが、資本コストを意識した経営という意味では、ROE も重要である。ROE 向上に向けて、どのように考えているか。

A:「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」については、6 月に開示したコーポレート・ガバナンス報告書に記載した通り、2023 年度期末決算発表までの開示に向けて議論中である。資産規模が大きな当社グループでは、ROA 向上が結果的に ROE 向上につながると考えている。

以上